



測定随時受付中

ちくりん舎は、行政から独立して放射能汚染を監視・測定、情報発信する市民団体・個人の共同ラボです。

市民放射能監視センター

●共同ラボ & 事務所

〒190-0181

東京都西多摩郡日の出町

大久野 7444

●電話 & FAX

042-519-9378

●電子メール

lab.chikurin@gmail.com

目次

●南相馬・20ミリ基準撤回訴訟 1

●ちくりん舎の測定結果 4

●ちくりん舎会員紹介(8) 5

●会員募集中 6

被ばく限度1ミリの厳守を求めて 南相馬・20ミリ基準撤回訴訟への支援を

＜きっかけはリネン吸着法による

大気中粉塵調査から＞

ちくりん舎で進めている大気中粉塵の放射能汚染を調査するリネン吸着法プロジェクトがきっかけで、南相馬市の人々との協力関係が生まれました。南相馬市では飯館村と接する原町区を中心に高汚染地域が広がっています。この地域で汚染状況を地道に調査しながら、行政や市民に被ばく低減のための働きかけを続けて来た「南相馬・避難勧奨地点の会」の小澤洋一氏が、リネン吸着法に注目して原町区の各所での調査を行ったことがきっかけです。

＜特定避難勧奨地点の解除に反対する運動で協力＞

政府は一方的に避難指定を解除し、住民の帰還政策を進めています。避難指定解除により賠償を打ち切り、早々と原発事故など無かったことにしたいという政府の意図は明らかです。南相馬市原町区に点在していた特定避難勧奨地点も、2014年秋には指定解除の動きが報じられました。小澤氏と原町区の区長さんを中心に避難指定解

除に反対する動きが急速に広まりました。

東京でも避難指定解除に反対する対政府交渉等が取り組まれました。国際環境 NGO・FoE ジャパンやフクロウの会等と協力して、ちくりん舎も測定や分析などの面で協力をしました。

＜子や孫たちのために被ばく限度1ミリを守る一裁判に立ち上がった南相馬市民＞

南相馬市民の運動や全国からの応援にもかかわらず、2014年末に政府は一方的に南相馬特定避難勧奨地点の解除を行いました。しかし南相馬の人々も黙ってはいません。これに対して新たな反撃の取り組みを開始しました。小澤氏の粘り強い働きかけや子どもたちを放射能から守る法律家ネットワーク(SAFLAN)などの支援もあり、



原告団の人々(2015年9月28日の第1回公判後の報告集会にて)

2015 年 4 月に南相馬 20 ミリシーベルト基準撤回訴訟が提訴されました。原告は約 206 世帯 808 人が参加するという大きな裁判です。国が特定避難勧奨地点を解除したのは違法として、国に解除の取消と 1 人 10 万円の損害賠償を求める裁判です。

この裁判の意義は、原告団団長の菅野秀一さんが述べている次のような言葉につきています。「この裁判は自分達のためだけのものではない。20 ミリシーベルトを今後の基準にされては子や孫に対して申し訳が立たない。」

<ちくりん舎の活動を通じての裁判支援>

ちくりん舎もさまざまな形で原告団の皆さんへ支援を行っています。リネン吸着法による調査だけで

なく、地域の人々の尿検査や米の検査などを通じた内部被ばく低減、髪の毛の放射能調査による汚染状況調査などを行っています。また最近では、たまあじさいの会が日の出町にあるごみ処分場の環境汚染調査で培ったノウハウを基に、地域の風の流れによる放射能粉塵の循環状況の分析などで成果を挙げています。

引き続き、ちくりん舎を中心に関係団体や個人の特徴を活かした支援、協力活動を進めていきたいと考えています。

(ちくりん舎理事／南相馬 20 ミリシーベルト基準撤回訴訟支援の会世話人 青木一政)

20 ミリシーベルトでは命を守れない！ ～南相馬の現場から～

南相馬・避難勧奨地域の会 事務局長 小澤洋一

<悪夢だったら醒めてほしい！>

日本国憲法 25 条に規定する生存権を無視し、「年 20 ミリシーベルト (mSv) 以下の被ばくでの健康被害は考えにくい」として、避難指示や避難勧奨・各種補償を打ち切って、放射能の汚染地帯に住民の帰還を強要する日本政府、「悪夢だったら醒めてほしい！」と考えるのは私だけでしょうか？ ICRP (国際放射線防護委員会) や IAEA (国際原子力機関) の考え方を取り入れ、日本^{*1}でのクリアランスレベル (人体に影響を及ぼさない基準) は、個人線量で年 10 マイクロシーベルト (10 μ Sv= 0.01mSv) が妥当であるとされているのにもかかわらずです。年 20mSv は原発作業員の基準であり、公衆の被ばく限度年 1mSv に対して 20 倍、クリアランスレベル年 0.01mSv に対しては 2 千倍です。このような環境で子どもたちや妊婦さんが生きていかなければならない状況は、悪夢としか言いようがありません。

かたや、フクシマの原発事故が無かったら知り合うこともなかっただろう、多くのすばらしい人たちにも巡り会えました。放射能に対する見解の相違か

ら旧知の友人を無くし続けてきましたが、新たに知り合った人たちのすばらしさはその何十倍にも感ずるほどで、「仮に夢だったら醒めてほしくない！」というのが本音です。たぶん「井の中の蛙」だった私です。

<まるで映画の世界で生きてる？>

2011 年 3 月 14 日の午前 11 時頃、原発から 22km 余りの自宅にいて、南東の方角からこの世の終わりかと思うような轟音が聞こえました。車で 1



南相馬市の大谷地区に設置されている放射能注意喚起の看板